

2014年4月17日
柏の葉アーバンデザインセンター

東京大学フューチャーセンター1階に移転 柏の葉アーバンデザインセンター 第3期活動開始

千葉県柏市・柏の葉地域を拠点としたまちづくり組織「柏の葉アーバンデザインセンター（略称：UDCK）」は、第3期活動拠点として、柏の葉キャンパス駅前に開設された東京大学フューチャーセンター（施設名：東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト）内に移転し、2014年4月18日より活動を開始します。

UDCKは、2005年のつくばエクスプレス開通を契機に始まった柏の葉地域のまちづくり推進拠点として、2006年11月に開設されました。2008年には、千葉県・柏市・東京大学・千葉大学の4者により当地域のまちづくりの大方針となる「柏の葉国際キャンパスタウン構想」が策定され、UDCKは「公・民・学」の連携を促しながら本構想の実現に向けたプロジェクトのコーディネイトを行っています。

UDCKは、法人格を持たずに構成団体が施設運営費や人件費を持ち寄るプラットフォーム型の組織として、自由で柔軟な議論・活動を展開してきました。2011年には、独自事業の実施などより積極的にまちに関与するため一般社団法人格を取得し、現在は任意団体と一般社団法人が並行して活動を行っています。昨年度は、一般社団法人として柏市より「都市再生整備推進法人*1」と「景観整備機構*2」に指定され、まちづくりにおける柏市との関係をより強化しました。また、策定当初からの柏の葉地域や社会の変化を踏まえ、柏の葉国際キャンパスタウン構想の内容充実化を初めて実施しました*3。

2014年4月からは、産学連携・社会実験の推進を目指す東京大学フューチャーセンターの1階に活動拠点を移します。これまでの活動やネットワークをベースに、より一層大学と地域の連携を深め、新たな社会実験を推進します。また、昨年度指定された都市再生整備推進法人と景観整備機構の立場を活用し、行政に対する計画提案なども行いながら、地域主導による自律したまちづくりを推進します。



柏の葉アーバンデザインセンター 新施設の外観（左）と内観（右）

【柏の葉アーバンデザインセンター 第3期の重点活動項目】

1. 大学と企業の先端知・技術と地域の暮らしをリンクする社会実験の促進
2. 駅前モデル地区のエリアマネジメント（都市再生整備推進法人として）
3. 駅前モデル地区から周辺エリアへのアーバンデザインの展開（景観整備機構として）
4. 「学びの街」として教育・研修プログラムの開発と実践

第3期 重点活動詳細

1. 大学と企業の先端知・技術と地域の暮らしをリンクする社会実験の促進

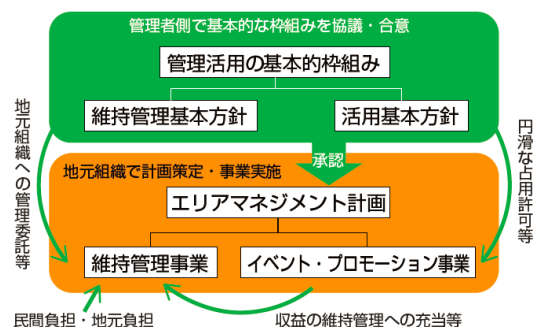
UDCK では、これまで東京大学との連携によるモビリティのシェアリングサービスや千葉大学と連携した街なか植物工場など、多数の社会実験をコーディネート又はサポートしてきました。今回、産学連携・社会実験を推進する東京大学フューチャーセンター並びに、企業のオープンイノベーションを推進するKOIL（柏の葉オープンイノベーションラボ）^{※4} が開設されたことを契機に、常に新しい取り組みにチャレンジする「イノベーション・フィールド」としての社会実験をより強化してきます。

2. 駅前モデル地区のエリアマネジメント（都市再生整備推進法人として）

2014年4月、柏の葉キャンパス駅西口通りを刷新しました。高木の街路樹の拡充や舗装の高質化、シンボルサインの設置といった景観面にあわせ、イベントやオープンカフェを想定しデッキや電源、水栓の整備を行いました。柏の葉キャンパス駅前は、柏市が策定する「都市再生整備計画」の中で道路占用許可の特例区域に位置付けられ、規制緩和によって、食事施設としてウッドデッキや屋外ソファ等ファニチャー類を、広告物としてシンボルサインやバナーフラッグを道路上に設置しました。

都市再生整備推進法人であるUDCKは、道路管理者である千葉県と柏市と協定を結び、維持管理並びに利活用、デザインマネジメントを担います。

今後は、道路上を活用したイベントや出店事業を展開し、その収益を維持管理に充てるスキームの確立を目指します。



<道路の維持管理・活用の枠組み>

3. 駅前モデル地区から周辺エリアへのアーバンデザインの展開（景観整備機構として）

土地区画整理事業の進捗によって駅前地区の周辺でも宅地利用など使用収益が開始され、土地活用が本格化しつつあることを受け、今後は駅前から一皮外側のエリアのアーバンデザインを重点的に手がけていきます。

2014年度は、柏の葉地域に企業や研究所の誘致を進める「イノベーションキャンパス」（柏の葉キャンパス駅付近から国道16号に至るエリア、2012年度に構想を策定）の推進に注力します。現在は、地域住民との話し合いを行いながら、具体的な都市計画の提案も視野にまちづくりの検討を進めています。

今後は一般地権者による中小規模の開発が中心となることから、景観整備機構として、普及・啓発や相談・助言など地域密着型の活動にも取り組みます。



<イノベーションキャンパス全体図>

4. 「学びの街」として教育・研修プログラムの開発と実践

UDCK では、2013年度実績で国内外からの視察受入が年間2,000人以上にのびます。現在、視察や研修のツアー化を進めており、今後はまちづくり人材の教育や研修プログラムの立ち上げを予定しています。また、他地域との連携や交流も積極的に進めていき、2014年秋にはアーバンデザインに関する国際的なフォーラムを、柏の葉キャンパスで開催する計画です。

柏の葉アーバンデザインセンター 組織概要	
設 立	2006年11月
センター長	出口 敦（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）
構成団体	柏市、東京大学、千葉大学、柏商工会議所、田中地域ふるさと協議会、三井不動産株式会社、首都圏新都市鉄道株式会社（7団体による共同運営）
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ●自治体、企業、大学、市民団体等（公民学）の連携による人材育成、会議、ワークショップ ●大学や企業の先端的な取り組みのパブリックアウトリーチ ●柏の葉地区ならびに TX 沿線の都市デザイン ●柏の葉地区におけるエリアマネジメント ●まちづくりの進捗に応じた柔軟な組織運営
WEB サイト	http://www.udck.jp/
施設概要	
所在地	〒277-0871 千葉県柏市若柴 178 番地 4 号 柏の葉キャンパス 148 街区 4 東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト 103
開館時間	月曜日～土曜日の 10:00～19:00
床面積	155 m ² （別に屋外デッキスペース 86 m ² ）
電 話	04-7140-9686
F A X	04-7140-9688
M A I L	info@udck.jp

- ※1 都市再生整備推進法人について
都市再生特別措置法に基づき、地域のまちづくりを担う法人として、市町村が指定するものです。都市再生整備推進法人に指定されることで、自治体への都市再生整備計画の提案が可能となり、また土地譲渡にかかる税制優遇など、まちづくりを円滑に進めるための様々な支援を受けることができます。
- ※2 景観整備機構について
景観法に基づき、民間団体や市民による自発的な景観の保全・整備の推進に向けて、景観行政団体（都道府県・市町村）が一般社団法人、一般財団法人又は NPO 法人を指定するものです。景観整備機構に指定されることで、景観形成に関する事業を行う者への情報提供や相談、また景観重要建築物や樹木の管理など、良好な景観を形成するための様々な業務を行うことができます。
- ※3 柏の葉国際キャンパスタウン構想の充実化内容は、UDCKWEB サイト（<http://www.udck.jp/town/>）で公開しています。
- ※4 オープンイノベーションをテーマに 2014 年 4 月 14 日に開業したイノベーションセンターで、事業主体は三井不動産株式会社です。詳細は、KOILWEB サイト（<http://koil.jp/>）で公開しています。

<参考資料> 4月26日 柏の葉キャンパス駅西口の市民向けお披露目イベントを開催

2014年4月26日（土）の10:00～16:00、柏の葉キャンパス駅前前で「マルシェコロール～新しくなった西口駅前通りで『まち・再発見』」が開催されます。マルシェコロールとは、2008年から柏の葉キャンパス地域で行われている都市型市場で、展示やワークショップなども含め柏の葉の見本市としての役割を担っています。今回は、刷新された柏の葉キャンパス駅西口通りを「みんなのリビング」として市民に利用提案・紹介を行うほか、東葛地域の有名シェフが集まる「東葛六市レストランサミット」協力によるグルメ市、地域住民のコミュニティ「まちのクラブ活動」が一堂に会する展示などを行います。詳細は、マルシェコロール公式 WEB サイト（<http://www.kashiwanoha-marche.com/>）で公開しています。

報道関係者からのお問い合わせ先

柏の葉アーバンデザインセンター 広報担当 蛭川 TEL:03-4580-9104(プラップジャパン内)